Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Reduced pubertal growth in children with obesity regardless of pubertal timing

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉井, 啓介 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032789

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙　第 3090 号	氏　　名	吉井　啓介
審　査　委　員　会	主　査　教　授	宮田　麻理子	

論文審査の要旨（400 字以内）

小児期の肥満が、思春期の身長の伸びと思春期のタイミングの両者に影響を与えるかを検討した調査研究である。海外では肥満が思春期の伸長の伸びの低下と相関する報告があるが、本邦での調査はなく、今回　調査小児数は 13,649 名という十分な数による日本人児童を対象に詳細な解析を行った研究である。
BMI Z スコアを基準として、痩せ群、正常群、肥満群の 3 群に分類し、１７歳児の伸長の変化率 SDS の変化率（ΔHtSDS）を思春期の伸長の伸びの指標とし、成長率のピーク年齢を思春期のタイミング指標とし、７歳児の BMI に基づいて三群で調べた。
肥満群は痩せ群に比べて ΔHtSDS が男児で 1.23、女児で 1.17 低下、正常群に比べて男児で 0.87、女児で 0.85 低下していた。小児肥満は思春期の身長の伸びの低下と関連していた。本研究では小児肥満が思春期の身長の伸びの低下に与える影響は思春期のタイミング介さない効果が介する効果によりも大きいことを初めて明らかにした。
成長率ピーク年齢を計算し、思春期タイミングの指標とするなど、論文としてのオリジナリティと解析の工夫が認められた。
また、十分な被験者数で解析していることから、確度の高い結果といえる。
これらから、学位論文にふさわしい内容と判断した。

Endocrine Journal 67(4): 477-484（2020 年 4 月 28 日発行）

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]